

平成29年度  
第2回やまがた緑県民会議

日時 平成29年10月19日（木）  
午前11時～午後3時15分  
場所 金山町町民ホールほか

1 開会

2 あいさつ

○環境エネルギー部長

3 議事

○議長あいさつ

議長から議事録署名人を指名

議事録署名人：林 雅秀 委員

報告

(1) ①平成29年度やまがた緑環境税活用事業の取組状況について

(みどり自然課みどり県民活動推進主幹、林業振興課森林ノミクス推進監)

資料1において説明

(鈴木正法委員)

病虫害被害木の伐採について、「広葉樹林健全化促進事業」については、ナラ枯れ被害木を含むナラ林の伐採によるチップ等への活用とナラ林の若返り、害虫の駆除を行うための搬出への支援ということだが、こちらの事業については、要望がないため数量の見直しを行い、里山林整備へ回すということだが、これについて詳しい説明をお願いします。

(森林ノミクス推進監)

資源の循環利用の促進の「広葉樹林健全化促進事業」については、民有林のナラ枯れ被害が徐々に減少しており、当初の計画を減じて実施したい。広葉樹林健全化促進事業で減となる事業費については、里山林の整備に事業費を変更して実施したい。

(鈴木正法委員)

ナラ枯れ等の被害はどの程度減っているのか。事業に対する要望が無いというのは、要するにこの事業は、被害はあるけれども、その後の適切な利用方法が無いから要望がないのか、あるいは、伐採搬出そのものが、なかなか人手が足りなくて要望が無いということなのか、その点についてどのように把握しているか。

(森林ノミクス推進監)

広葉樹の利用については、以前、パルプ等に多く利用していたが、近年は、広葉樹林の利用がだいぶ減少していることから要望が少なくなったのではないかと考えている。

委員から発言のあった人手の問題もあろうかとも思うが、この事業の取組みには、人手の問題は直接的な影響はないと考えており、どちらかというところ、広葉樹林の利用やナラ枯れ被害が減少してきているところに大きな要素があると考えている。

(鈴木正法委員)

どの程度(ナラ枯れ被害が)減ってきているのか、実態の把握はどのようになされているのか。

(森林ノミクス推進監)

ナラ枯れ被害が一時多かったのは、平成20年前後で平成22年度の被害が最も多く、その後近年は減少し、民有林では5分の1(※補足：正しくは、「10分の1」)程度にまでなっている。

(鈴木正法委員)

減少しているとのことだが、被害は減ってはいるが、まだまだナラ枯れの被害はあるということなので、今後に対応など引き続きできるように検討をお願いしたい。

(後藤議長)

当局においては、こういう状況を踏まえ、順調な進捗を図っていただきたい。

(安部雄祐委員)

近年、住宅関係もそうだが、補助金や国の政策等々によって、我々の木材関係は特にそうであるが、仕事が動き出しているという傾向が非常に強いなと思っている。現在、あちこちから丸太が不足しているとの話も聞いている。やまがた緑環境税に関しては、どちらかというところ民有林の保全という形の事業になろうかとは思いますが、6月以降は、国有林等も動き出して山の方も忙しい時期に入ってきており、年度内に(事業を)終わらすということで皆さん動いて進捗率も上がっていると思う。例えば、年度を超えて、翌年の6月までできるようにするとかすれば仕事がばらけるのではと考える。山の現場でも我々の企業でも、人材が減ってきており、仕事が集中してしまうとこなせず、ましてや(労務)単価も上がって、人が集まればいいのだが、仕事が進まないという状況があり、山や工場、住宅の方も安定的な仕事を求めてきている。安定的に仕事をしていかないと人手が足りないという状況が起きてきているように感じている。ここ近年は、国の政策によって動いている仕事が多い中で、そのような(年度をまたぐような)配慮ができないものかと考える。やまがた緑環境税事業の進捗が進んでいることはいいことで、木材利用のほうから見ると「資源の循環利用の促進」については、皆さんが活用されて進んでいるが、森林整備については、発注時期や施業する時期について、平準化することはできないものかと思っている。

**(森林ノミクス推進監)**

間伐等を実施して木材を利用することや、年間を通して仕事を平準化すべきということについては、委員のご意見のとおりである。ただ、やまがた緑環境税で事業を実施する場合は、会計年度があり、基金とのやり取りを行わなければならないことから、3月で事業を完了させる必要がある。仕事の平準化を図るためには繰越ということではなく、年度初めに早期発注することで事業の平準化を図っていきたい。併せて、国有林の発注も4月早々に始まることから、さまざまな事業について情報収集し、事業の平準化を進めていきたいと考えている。さきほど労務の話もあったが、事業が集中するとどうしても大変になるので、労務対策に併せて平準化に努めたい。

**(安部雄祐委員)**

現場の人が少なくなっているということもあるので、ぜひ平準化に向け進めていただきたい。

**協議**

**(1) ②平成30年度やまがた緑環境税活用事業の取組みの考え方について**

**(みどり自然課みどり県民活動推進主幹、林業振興課森林ノミクス推進監)**

**資料2において説明**

**(川合要一委員)**

ハード事業の「森林資源の再生」の中の再造林とその後の保育施業について、お聞きしたい。現在、再造林には補助金100%ということで進めさせていただいており、大変ありがたく思っている。ただ、再造林後の保育作業は68%であることから、この保育作業もやまがた緑環境税で100%補助出来るようになると、再造林も進むのではないかと思う。個人の財産をやまがた緑環境税で実施するというので、ハードルは高いと思うが、この保育に関しても100%にしないと再造林も進まないのではないか。

**(森林ノミクス推進監)**

再造林は、国庫補助事業(68%)と、やまがた緑環境税(12%)、県単独(20%)で今年度から100%の補助率としている。再造林を行う場合は1ha当たり100~120万円ほどの経費で、費用がかなり掛かるということで、まずは再造林を進めるために補助率100%としている。来年からは、民間の協力金も活用し、補助率を100%にするよう準備を進めている。

一方、保育については、1ha当たり15~20万円程度の経費で、個人の負担はhaあたり6万円前後となる。確かに、森林所有者の負担になって、再造林が進まないというご意見も聞いているところであるが、その中でも、まずは再造林に100%の支援を行っているところである。保育については市町村で支援しているところもあり、市町村で支援していただくようお願いしているところである。今後、所有者負担を減らすように、さらに検討していきたい。

**(川合要一委員)**

市町村の支援は南陽市で最初に始めた経緯があるが、国で検討している森林環境税(仮称)を保育作業に活用できないのか。

**(森林ノミクス推進監)**

現在、国の森林環境税(仮称)については、林野庁で制度設計を行っているところなので、詳しくは把握していない。

国の森林環境税についての情報としては、「所有者の不明となった森林や経営を放棄した森林について、市町村に寄付し森林整備を進める」ということを検討しているようである。判りしだい委員の皆様へ情報を提供させていただきたい。

**(2) 協議**

**(2) みどり豊かな森林環境づくり推進事業の募集・審査基準等について**

**(みどり自然課みどり県民活動推進主幹)**

**資料3において説明**

**(川合要一委員)**

確認なのだが、資料3-4の一番最後の別表4で、24点満点で12点であれば12点以上の申請は、すべてこの事業で採択すると、そういう解釈でよろしいか。

**(みどり県民活動推進主幹)**

12点以上のものは、基本的にはすべて採択をしたいと考えている。ただし、第二次審査基準に予算の範囲内で決定するとあるので、「事業の内容や経費を調整する場合がある」ということも書かせていただいている。

**(環境エネルギー部次長)**

12点以上を採択の基準として、調整でできるような場合もあるし、あるいは、12点以上の点数の中で予算オーバーする場合は、その中で、例えば採択されたのが13点のグループとか、そういったような場合も考えられる。ある程度の調整できる経費をみて、具体的に調整できるものなのかどうか、あるいは、やはり点数の上位のもので評価すべきものか、というところを総合的に判断させていただく。

**(後藤完司議長)**

ということは、基本的に、川合委員からあったように12点以上のもの全部の案件を採択するというのではなくて、ある程度予算なり、申請金額について調整をとりながら進めるということか。

(阿部多喜子委員)

県の事務の手續きだが、1月9日で募集開始して、最後のやまがた緑県民会議への報告までの期間が、ずいぶん短いような気がする。そこは、無理なくこなせるようになっているのか。これは、やまがた緑県民会議には、特に提出するだけだが、県の動きとしては問題なくできるのかどうか、大丈夫なのか。

(後藤完司議長)

審査までの時間的な余裕ということか。

(みどり県民活動推進主幹)

審査期間についての質問だが、例年同様の時期に募集開始としたい。確かに、第一次審査及び第二次審査を経て、やまがた緑県民会議に報告させていただく訳だが、期間がない中で、一次審査、二次審査については、頑張って審査をして、時期に間に合うように取組みたいと思う。

4 その他（情報提供）

- (1) やまがた木育推進方針（仮称）について
- (2) 「森林環境税」（仮称）の創設に向けた検討の動きについて  
（みどり自然課みどり県民活動推進主幹）説明

5 現地視察

「やまがた緑環境税」活用事業実施箇所の視察を行った。

6 閉会